平成２９年度学校評価（慶應義塾高等学校）

本校の教育理念	学問の修得に基づいた「独立自尊」の精神を育て、気品と智徳を備えた生徒を育成することを目標とする。

本校の特色	本校は、創立者福澤諭吉の精神に基づき、小学校から大学に至る一貫教育において、中等教育の一画を担うものである。従って、在校生が慶應義塾大学へ進学することを前提として教育方針は定められる。また、本校は、大学と隣接しており、カリキュラムあるいはクラブ活動などにおいて、大学との密接な連携がなされる。一貫教育校として、大学そして小・中学校との連携は学校教育の全ての面に関わるもので、今回の学校評価においては、特別の項目として取り上げてはいないが、個々の項目にその要素が含まれる。

学校評価の経緯と今年度の評価対象	本校では、平成２０年９月に初めて学校評価委員会を設置した。今年度は教育活動（必修科目・卒業研究）、特別教育活動（選択旅行）、安全管理、運営（図書）、学校いじめ防止方針に基づく取組の実施状況について点検・評価を行う。達成度については担当者判断、または生徒によるアンケートを実施し、A～D段階で表示する。

評価項目	取組目標	具体的な方策	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
教育活動					
必修科目	国語 読解力、表現力およびその基礎となる語彙力の向上を図る。古文、漢文の学習を通して、伝統文化の本質を理解させるとともに、それが現代にも継承されていることを理解させる。	①古代から現代に至る多くの作品に触れさせる。 ②読解の解説にとどまらず、発展的に考えるよう指導する。	多様な作品を取り上げることで、その本質にまで目を向けさせることができた。	B	生徒の興味をよりきめ細やかにすくい取るために取り組み方を工夫するとともに、1クラスの人数を減らすなどの対策も必要か。
	地理歴史 日本および世界の成り立ちや、各地域の特色を学ぶことで、社会的認識を広め、論理的思考力を養う。	歴史的資料や映像、地図、統計などを効果的に活用しながら、興味関心を高め、幅広い知識を習得させ、深い理解を促す。	担当者の専門性を活かしつつ、史資料や映像などを用いながら、歴史的・地理的事象を概ね学ばせることができた。	B	生徒がより主体的、かつ多角的な視野に基づいて問題に取り組めるように、史資料や教材の精選に努め、授業を展開していきたい。
	公民 現代の諸問題を取り上げ、社会の根本原理や諸制度を学ぶことを通して、複雑かつ馴染みの薄い「現実社会」への理解と関心を高める。	重要な問題を題材として、その原因を授業を通して深く分析し、発表・討論、グループワーク等で自ら発見・思考・表現させる。	学問的なアプローチや様々なアクティビティを通して理解を深められた一方で、途中で興味を失う生徒も散見された。	B	テーマやアクティビティが適切なものとなるよう再検討する。そして、なぜそれを行なう必要があるかを繰返し生徒に提示しながら進めていく。
	数学 高等学校数学の基礎となる内容から高度な内容まで、幅広く取り扱い、思考力を鍛える。	演習時間を多く取り入れ、自分が手を動かすことで理解が深まることを実感させる。	前向きに取り組んでいる。	A	より自主的な学習習慣と、より正確な計算力が備わるようにしたい。
	理科 幅広い科学の知識を身につけ、科学的な思考法を習得し、生活に関わる現象が科学と密接に関連していることを理解する。	体験的な実験、観察を含む学習を通じて、実際の現象と科学的知識が関連していることを示しながら展開する。	指導要領に示された内容を、より体験的に、より生活との繋がりが感じられるよう、工夫して授業を展開した。	A	教科書理解と実体験との繋がりを意識させる展開では、時数が不足しがちとなる。扱う内容の厳選が課題となる。
	保健体育 保健 社会現象等も参考にしながら、健康維持増進・命の尊さを学ばせる。 体育実技 体力向上のための具体的方策を学ばせ実践させる。 ルールを厳守して公正な心を育ませる。 柔道 自らの身体を守るための技術を習得させる。日本の文化を経験し考察する。 健康安全について、各自が関心を持ち、積極的に学ぶ姿勢を育てる。	報道にも注目し、自らを戒める。応急手当の実践を行い、普通救命講習修了証を横浜市消防局より発行して頂く。 体力測定のデータを参考にして、各々にあった運動を考えさせる。 フェアプレーの精神を懇切丁寧に説明する。 初心者に対する配慮を怠らず、練習方法に変化を加える。礼法やその意味を理解させ実践させる。	保健を受講している1年生全員が「普通救命講習修了証」を取得した。 健康や命の尊さを改めて認識できた。 個々の体力向上と集団競技で育まれる責任感や奉仕の精神を意識して努力出来た。 礼節やフェアプレーの精神などを理解して実践できた。	A	単元や競技によって好き嫌いがはっきりして、嫌いなことへの興味と意欲が低いこともあった。それらを克服するための動機づけの必要性と具体策を考えたい。 気候（気温・湿度・雨天等）によって充実度や安全面が大きく左右されるので、施設面での充実も検討するべきと感じた。

評価項目	取組目標	具体的な方策	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
必修科目	芸術 豊かな表現力と幅広い知識、加えて鑑賞する能力を高める。	基礎知識および表現方法を講義、実習において会得する。さらに芸術作品を鑑賞することにより感性を高める。	生徒の芸術に対する関心や創作意欲を高めるという点において、概ね目標は達成出来た。	A	引き続き芸術への理解が深まるよう創意工夫し、高いレベルの表現を追求させたい。
	外国語 英語 読む・書く・聞く・話す、の４技能をバランスよく育成することはもちろん、多言語・多文化への理解を育む。	単語・文法などの知識学習に加え、コミュニケーション活動を通して、表現・対話の技術を高める機会を提供する。	単語・文法など知識の定着ははかられているが、時間的な制約もあり、アウトプットの部分はまだ足りないように思われる。	B	週4時間という制限のなか、理想の授業を展開するのはかなり難しい。しかし各教員が創意工夫して、少しでも理想に近づけられるよう改善していきたい。
	第二外国語 基本的な文法、発音から始めて、最終的には読む・書く・聞く・話すの4技能の総合力をつけさせる。 それぞれの言語を通して他文化への理解を深める。	２年次にドイツ語・フランス語・中国語の3科目を設置する。 全くの初心者からのスタートであることを前提に始め、３年次での学習にも繋げる。	生徒のレベル差が見られる部分もあったが、４技能を意識したバランスの良い授業を展開することができた。	B	①定期的な発音のチェックを行い、忘れないようにさせる。 ②リスニング練習の回数を増やす。 ③実践の機会をさらに増やす。
	家庭 独り立ちに必要な知識と技術を習得させ、生活の充実向上を図る態度を育む。	生活課題の解決を意識した講義を行う。 調理・裁縫実習を通して技術を習得させる。	生活課題についてグループ学習を行い、実習を増やして基礎の定着を試みたが、習熟度に個人差があった。	B	限られた授業時数の中でも、実習と講義をより効果的に展開し、生活とのつながりを意識した授業ができるよう検討する。
	情報 情報社会を生きる上での知識やモラルを、生徒が着実に身につけられるような授業環境を整える。	生徒に身近な実例を示すなど、概念的な理解にとどまらない工夫をするとともに、担当者間の意見交換の結果を適切に授業に反映させる。	工夫と意見交換については、概ね良好な結果を得たが、生徒が机上の理解にとどまっている点になお改良の余地がある。	B	座学レベルの授業内容はこれまでの方針を継承しつつ、適切な時事トピックの選定に留意する。実習に関しては、新たに選定した副読本によって効率的な授業展開を図りたい。
卒業研究	・各教科で分類を設定し、生徒の希望に応じた選択ができるようにしている。生徒各人が論理的思考を養い、表現力を身につけ、大学へ進学するための準備をさせる。 ・最終的に４１講座を設置した。その内訳は、外国語系６講座、社会系１３講座、数学系４講座、理科系４講座、保健・体育系５講座、国語系３講座、芸術系４講座、情報・コンピュータ系１講座、家庭・生活系１講座である。 ・優秀な卒業研究として９作品を選出した。				
	国語 生徒が自分の好きなテーマを発見し、自発的に研究を深め、最終的に論文等の形にまとめる。	生徒が自発的に研究を深めるに当たっての支援として、図書や映像等の紹介や講読・上映会等を行ったり、生徒の研究の進捗状況に応じて適宜発表・意見交換の場を設けたりするなどの方策をとる。	生徒の興味をさらに引き出し、より自発的に研究を深めるよう手引きできた。	A	より早い段階で生徒が積極的に動き出せるように、導く側にもさらなる工夫が必要である。
	地理歴史・公民 12,000字程度の論文を執筆させる。生徒独自のテーマを深めさせると共に、学術的な論文の書き方、研究方法を習得させる。	生徒が自分のテーマについて広く調べ、先行研究やデータ・史料などをもとに論理的に結論を出すよう指導する。	論文の書き方が習得できた一方で、広く調べた生徒は文献をまとめるだけに、アイデアのある生徒は先行研究が不足しがちであった。		前期の段階から先行研究を調べてまとめるようにさせ、後期においてそこから自分の研究へと発展できるよう指導する。
	数学 枚数・字数制限は設けないが、論文を提出させる。基礎的・応用的な知識を身につけ、論文を作成する力を育む。	各自のテーマごとに課題を見つけ出し、より良い解決策を考察する。	4月当初は目標が定まらない生徒が多かったが、年度末には全員が論文と呼べるものを書き上げた。		生徒の方向性が一人一人異なるので、指導がしにくい。もっと少人数で行うことができれば、生徒もさらに良い研究ができると思われる。
	理科 理科の各分野を題材に、各自でテーマを探して設定する。課題を自ら探究することで、体験的に科学を理解する。	講義や実習を配し、実験・観測や文献検索・発表などを通して、科学の方法を経験し、研究活動を行う。	既習内容を活かしながら興味に沿ったテーマを設定し、実験・観察を通して得たデータの解析や考察を行った。		生徒の希望テーマ全てに対応することは難しい。研究の質を高めるため、引き続き環境整備を行っていきたい。

評価項目	取組目標	具体的な方策	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
卒業研究	保健体育 各個人の興味・関心に応じた研究テーマについて、主体的に研究し考察する。12,000字程度の論文を提出させ、クラス単位で発表させる。	各個人の研究テーマを確認して、個別に指導する。その後は情報収集をさせる。中間発表でさらに指導して、最終論文・発表を迎える。	スポーツにおける競技性のみならず、マネージメントやビジネスやトレーナーの仕事にまで興味を持つ者がいて、良く調べていた。論文も良く出来ていた者が多かった。	A	参考文献を多用する者が多かったので、必要最小限にとどめ、自ら調査することを勧めたい。 スポーツの現場を直接観察することも検討したい。
	芸術 興味ある分野について自主的に調査・考察させ、10,000～12,000字の論文を書かせる。	対象とする時代や作家についての資料を集め、調べた内容を論文としてまとめる。場合に応じて創作を伴う。	多くの生徒が目標に向けて努力することができた。		限られた期間で目標を達成するために、引き続き細やかなサポートを行いたい。
	外国語 外国のことばや文化をめぐる様々な事象について、生徒の興味関心を高め、理解を深める。	文芸作品や映画、専門書を利用しながら、外国語や外国文化について理解を促す。また、母語である日本語、そして日本文化との比較をすることで、さらなる理解が深まるよう指導したい。	教員のアドバイスを受けながら、多くの生徒が自らテーマを定め、それに向かって研究を進め、エッセイを書きあげることができた。しかし、中には計画的に研究を進められずに、提出がぎりぎりになる者もみられた。		生徒みずからが計画的に研究を進められるよう促し、また、全員が余裕をもって論文提出できるように、さらに細かい指導を心掛けたい。
	家庭 家庭生活の中から各自でテーマを設定し、計画的に研究を進める。	研究計画を示すとともに、定期的に発表・報告させ、進捗状況を確認させる。	定期的に発表と報告をさせたことにより、計画的に調査、研究、論文作成を進めることができた。		より良い論文の作成のために、テーマの設定、調査・研究の進め方、書き方の指導法について検討する。
	情報 研究テーマを適切に設定し、あわせて、研究成果を挙げるための方法を身につけさせる。	研究自体の概念、学術論文の探索方法などを理解させるとともに、適宜発表の場を設けることにより、積極的な取り組みを促しつつ、研究法の定着を図る。	概ね良い結果が得られたが、項目ごとの生徒の理解・定着度合いにばらつきが見られた。		より理解・定着が進んでいる生徒から、そうでない生徒への働きかけをもっと促したい。
	・受講した生徒にアンケートを実施した結果、取り組みに対する満足度（数字が大きい方が満足度が高い）は5…38%、4…38%、3…19%、2…5%、1…0%であった。 ・生徒が卒業研究に取り組んでよかったと感じた点（複数回答可）は、「今まで知らなかったことを知ることができた」が最も多く59%、次に「論文の書き方を学ぶことができた」56%、「達成感があった」50%となっていた。 ・生徒が卒業研究に取り組んで、こうすればよかったと思うこと（複数回答可）は、「計画的に研究を進めればよかった」が最も多く48%、次に「参考文献・データを増やせばよかった」43%、「もっと内容を掘り下げればよかった」36%となっていた。				
特別教育活動					
選択旅行	いくつか用意されているコースの中から、生徒一人一人が自分の興味・関心に応じて、行きたい旅行を選び、参加できるようにする。	夏期に8コース、春期に12コースを設定する。	開講した全コースとも無事に終了した。旅行後に実施したアンケートでは、コースによって若干のばらつきはあるものの、半数以上の生徒が「非常に満足した」「満足した」と回答しており、好評だった。	A	目的地について知識があれば、感動はより深まると思われるので、事前指導をよりきめ細やかに行う。

評価項目	取組目標	具体的な方策	達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
安全管理					
設備	教職員相互の協力を得て、定期的に教育施設・設備の保守・点検を行い、事故防止や安全対策を図る。	定期的に各教育施設の安全点検を行う。必要に応じて設備の修繕・改善を行う。 熱中症・けが等の予防のための製氷機を設置する。	部室棟を中心に大掃除、廃棄物処理、並びに点検を実施し、危険箇所の発見に努めた。 安全対策委員による校舎内外の点検を実施し、老朽化した設備など、その都度速やかに対処した。	A	教育施設・設備の保守・点検を定期的に継続・実施する。 教職員の相互の連携を図り、今後予測される教育施設・設備の修理・改善を積極的に行う。
保健衛生	環境衛生調査を継続して行い、生徒の快適な学校生活のための環境を整備する。 保健衛生に関する情報を生徒に適宜提供する。	年2回、環境衛生調査を継続して実施する。 関係スタッフと相互に協力し、迅速に教室環境の充実を図る。	・教室内の二酸化炭素濃度を、設置した換気扇により改善できた。 ・第一校舎北側のトイレを改修した。 ・保護者向けの講演会の実施、精巣捻転の啓蒙を図るプリントを配布した。	B	・環境調査を引き続き実施していく。 ・保健衛生に関する講演会を実施して、情報発信していく。 ・インフルエンザ対策をさらに細かく実施していく。
危機管理	非常時・緊急時に対応できる体制を作り、被害の拡大を防ぐ。	避難訓練を実施する。 生徒・教職員対象のBLS講習を実施する。 緊急時一斉連絡システムを継続する。 熱中症については、発生しやすい夏季のクラブ活動に合わせて、啓発プリントを配付する。	４月に学校全体で避難訓練を実施した。 生徒対象のBLS講習を実施した。 監督・コーチに対するBLS講習を実施した。 緊急時一斉連絡システムを継続した。 熱中症に関する啓発プリントを配付した。	A	教職員も含めた各種講習会等を実施し、さらなる安全に対する意識の向上に努める。 非常時・緊急時の備品の補充を継続的に行い、その情報の共有を行う。
運営					
図書	教員との連携強化および、より多くの生徒に図書室を活用してもらうための働きかけを行なう。 また、2018年度に予定されている新図書室への移転の準備も引き続き行なう。	1年生の情報の授業での利用案内配付や、卒研授業での卒研対策シリーズパンフレット配付などを行なう。 新図書室の書架量に合わせて、図書の整理を行なうと同時に、書架や什器の選定なども行なう。	新入生への利用案内配付、卒研担当教員全員への卒研対策シリーズ配付、卒研授業での配付などを実施した。 文庫のうち古いものや重複するものを除籍し、残したものについては、請求記号を現在のルールに則って付け直し、一元管理できるようにした。 新図書室移転に向けて、什器選定や仕様の検討を行なった。	A	夏に予定されている新図書室への移転を滞りなく実施する。 教員との連携強化のため、教員向けサービス紹介のパンフレット作成や、卒研セミナーの再開などを検討している。
学校いじめ防止基本方針に基づく取組 の実施状況					
いじめ防止対策	生徒の声を受け止め、しっかり向き合う。迅速に、組織的に対応する。 保護者、関係機関との連携を図る。	ホームルーム・学校行事・部活動への取り組みを通じ、望ましい人間関係の構築を促す。 担任による個人面談、保護者との面談を実施する。 いじめ防止対策委員会を核とした対応を行う。	・年間に複数回の個人面談を実施した。 ・必要に応じて保護者との面談を実施した。 ・保護者、生徒に相談室の積極的利用を促し、連携して対応した。	B	・早期発見のための取り組みのさらなる推進を図る。 ・インターネット上のいじめへの対応を検討する。 ・教員向け講座を実施し、対応のスキルアップを図る。